

「We are, 科学デモンストレーターズ 2014」実施報告

奥出 恵子, 渚 純子, 木村 友美*

概要

2014年12月22日に「We are, 科学デモンストレーターズ 2014」を実施した。本稿では、このイベントの実施概要及びその成果について報告する。

1. はじめに

本イベントは、科学デモンストレーターらが一堂に会し、一日中サイエンスショーコーナーでさまざまな実験を披露するイベントであり、2013年度に続き2回目の開催となる。

昨年の「We are, 科学デモンストレーターズ」と同様に、日頃エキストラ実験ショーで培ってきた実力を披露するとともに一日でたくさんの種類の実験ショーを来館者の方に提供することが主たる目的である。今後も本イベントを継続的に開催できるように、題字に『2014』を加え実施した。

また昨年度は3月に実施したが、今年は12月に行った。もともとサイエンスショーとは電磁気学者 M. ファラデーがクリスマス時期に行っていたクリスマス・レクチャーが起源となったと言われている。このような背景も踏まえつつ、「科学デモンストレーターズからのプレゼント」というコンセプトで実施した。

2. 実施概要

2-1. 当日スケジュール

本イベントは表1で示すようなタイムスケジュールで実施した。演示時間は、通常のエキストラ実験ショーと同様に20分間である。演示の入れ替え時間は15分程度用意し、観覧者が1テーマずつ見たいものを選択できるようにした。なお、参加している科学デモンストレーターの増員に伴い、演示数は11回と増加している。そのため、昼休憩も30分と短い時間に設定することになってしまった。昨年度実施した際、すべての演示を観覧しているお客様も相当数いらっしゃる事が明らか

となったため、本年度は昼休憩前後の演示を同じテーマにし、どちらか一つを見るようにすればすべての種類の演示を観覧できるように配慮した。このことにより、適切な休憩時間を含みつつ、すべての演示を楽しみたいというお客様への配慮も可能となった。

また最初の演示前には、昨年度と同様オープニングを行った。

表1. 当日タイムスケジュール

開始時間	テーマ	演示者
10:15	光の虹を見てみよう	益都子
10:50	電池のヒミツ	渚純子 林ゆりえ
11:25	炎のアツい科学	前田萌絵
12:15	炎のアツい科学	飯野 瑛里子
12:50	静電気ビリビリ	奥出恵子
13:25	花火の大実験	坪井建治
14:00	色のいろいろ	安齋太陽
14:35	スーパー磁石	米田真弓
15:10	光のヒミツ	西口晴子
15:45	世界一かんたんブーメラン	宮脇佳那
16:20	見える、見えないのふしぎ	村上真紀

2-2. 広報素材の作成

企画広報担当の永原氏にご協力いただき、本イベントのチラシを作成した。A3二つ折りのチラシを作成し、当日のイベント告知だけでなく「科学デモンストレーターとは?」「科学デモンストレーターになるまで」「科学デモンストレーターの活動」などの項目を記載し科

*大阪市立科学館 科学デモンストレーター
tomomik0308@gmail.com

学デモンストレーターが存在や活動を知っていただくための情報も併せて掲載してもらった。科学デモンストレーターの活動は、科学館内のみならず、館外にも広がっているが、その活動を余すところなく紹介している。



図1. 広報チラシ(A3 二つ折り中面)

2-3. お土産の作製

昨年同様このイベントおよび自身の演示を振り返る素材としてサイエンスショーを観覧していただいた方にアンケートを実施した。この際、アンケートと引き換えという形で、図2に示すようなお土産を2種類製作し配布した。

これらは、イベント中の「光の虹を見てみよう」「見える、見えないの不思議」でも使用している道具を小さくしたもので、自宅でもサイエンスショーの一部を追体験できるものである。

昨年度と同じものを用意したが、年代を問わずお客様には概ね好評だったようである。



図2. 作成したお土産

3. 観客者数

当日の観覧者数は表2に示したとおりである。時間帯により差はあるもののべ1000人を超えるお客様に観覧していただき、1回の演示あたりの平均観覧者数は90人にも達した。

4. 観覧者アンケート結果

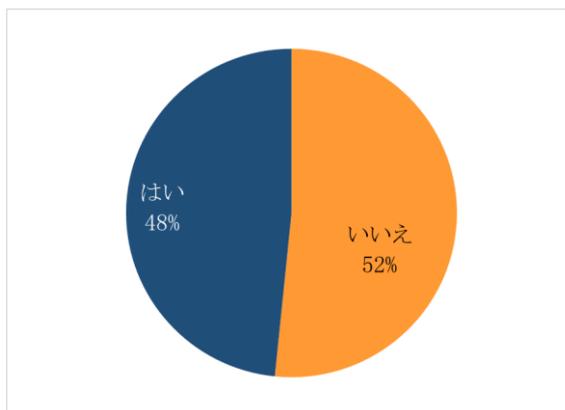
当日、観覧者には先に述べたようにアンケートを実施した。以下にその結果を示す。

表2. 各回の観覧者数

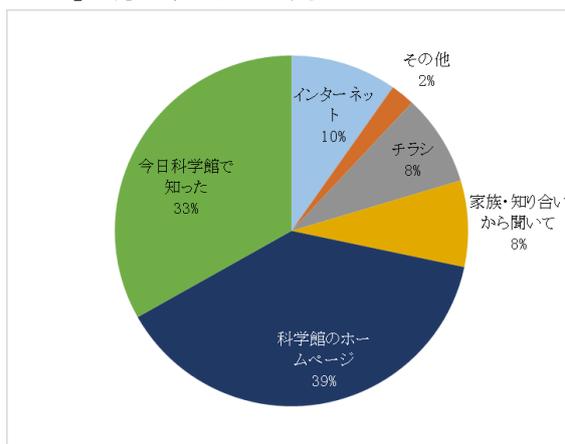
開始時間	テーマ	観覧者数
10:15	光の虹を見てみよう	50人
10:50	電池のヒミツ	80人
11:25	炎のアツい科学	85人
12:15	炎のアツい科学	70人
12:50	静電気ビリビリ	115人
13:25	花火の大実験	120人
14:00	色のいろいろ	75人
14:35	スーパー磁石	110人
15:10	光のヒミツ	115人
15:45	世界一かんたんブーメラン	80人
16:20	見える、見えないのふしぎ	120人

・イベントの告知方法について

設問1: 本日のイベントを知っていましたか？

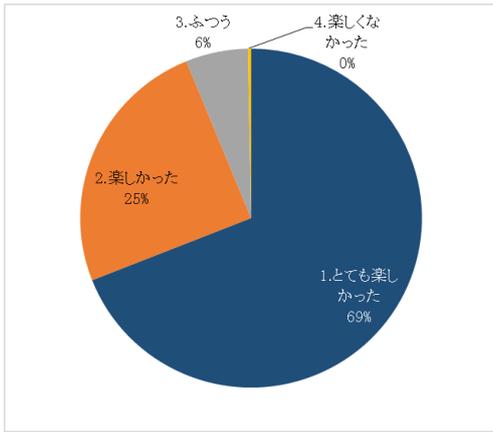


「はい」の方は、どこで知りましたか？

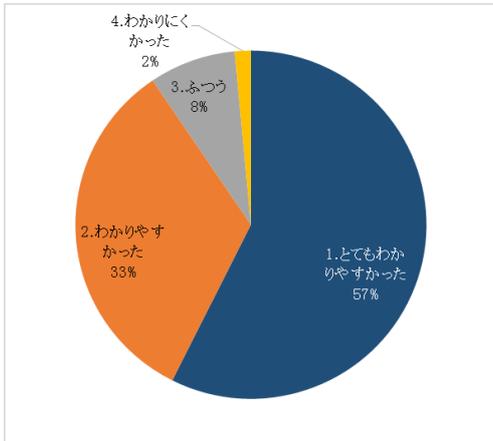


・見学者の満足度について

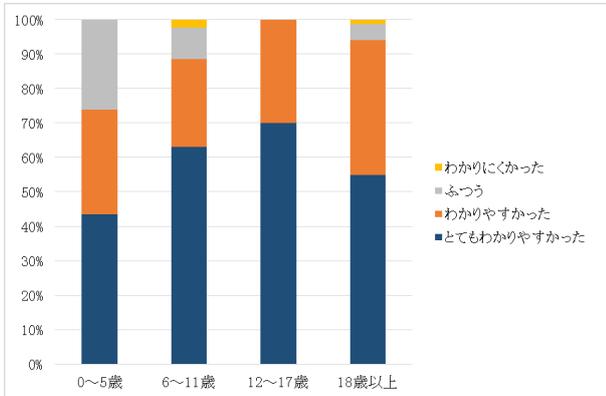
設問2: 実験ショーは楽しかったですか？



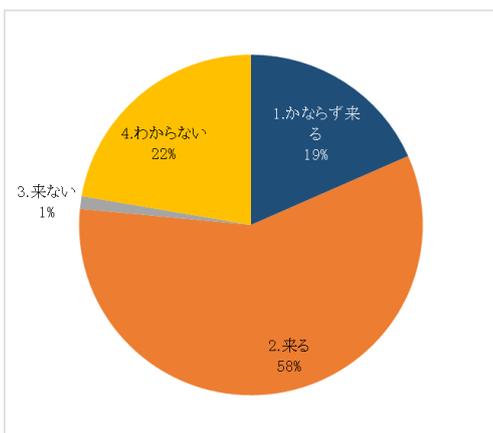
設問3: 実験ショーの内容はわかりやすかったですか？



年齢別分布

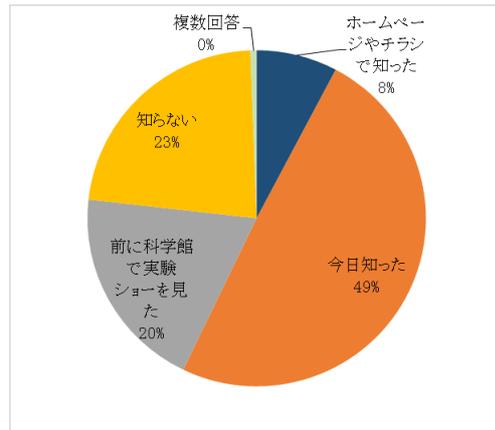


設問4: 今日のようなイベントがあったら来ますか？

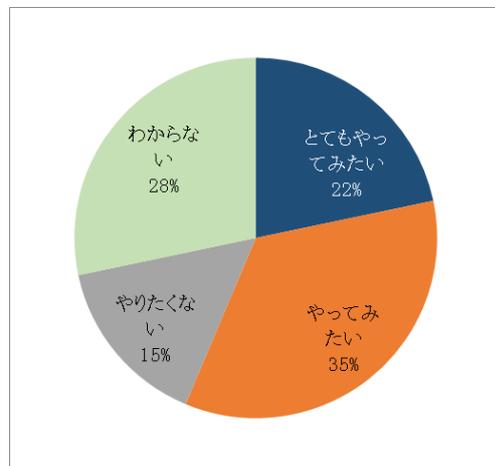


・科学デモンストレーターについて

設問5: 科学デモンストレーターを知っていますか？

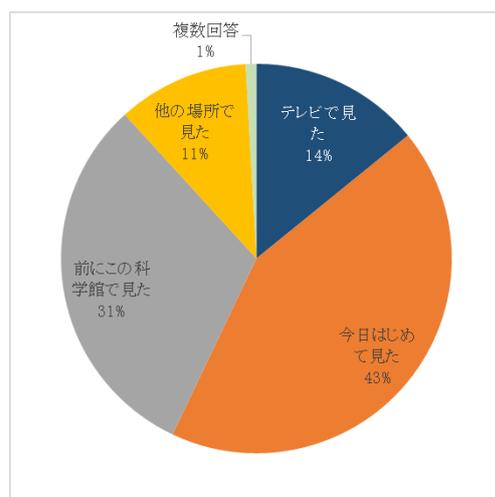


設問6: 科学デモンストレーターになって実験ショーをしてみたいと思いますか？

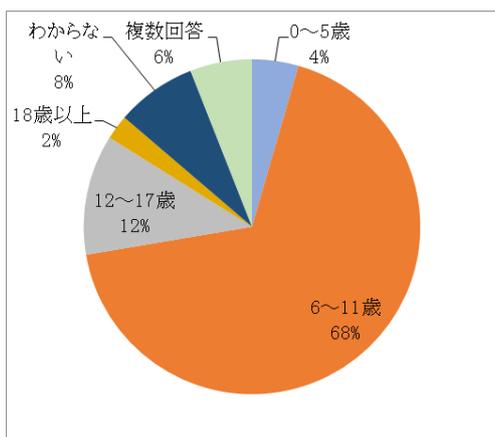


・実験ショーについて

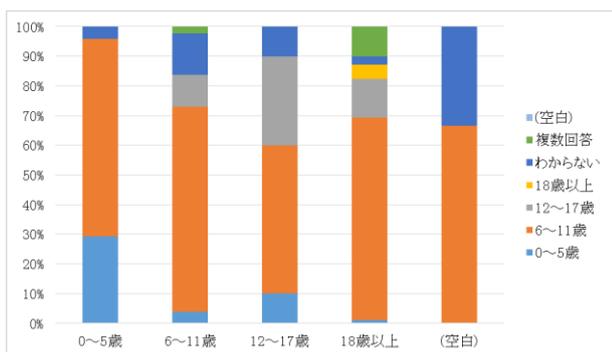
設問7: 今までに実験ショーを見たことがありますか？



設問8: 今日の実験ショーは何歳向けだと思いませんか？



年齢別分布



観覧者からの回答からもうかがえるように、本イベントの満足度は非常に高かったようである。

昨年度と比較すると、事前に本イベントを知っていた人の割合も32%から48%へと上昇した。また科学デモンストレーターについての問いも、昨年度は前から知っている人が9%であったのに対し、今回は以前に実験ショーを観覧いただいた人が20%へと上昇していた。これらの結果を見ても、科学デモンストレーターの存在が認知され、デモンストレーターのイベントであると認識して来館していただいた方が増えている様子うかがえた。

5. まとめ

今回、科学デモンストレーターズで2回目の実験ショーを主体とするイベントを行った。当日も大きな問題もなく実施することができ、さらに観覧者の方々からは温かいお言葉を頂くことができた。また、お土産を製作し、配布することでお客さんとの交流も進み、お客様の生の声を直接聞く機会を得ることができた。

また今回、開場時間前から列ができ、このイベントを目的として来館していただいた方も多数いらっしゃった。先のアンケート結果と合わせてみても、科学館のボランティアの一員としての科学デモンストレーターの存在が大きなものとなっていることを感じた。

一方で、科学デモンストレーターの人数が増えてきたことにより、タイムスケジュールがタイトになってきてしま

った。今後はこのような機会を増やしたり、昼休み等プログラム、時間の割り振りをさらに工夫し、一人でも多くのデモンストレーターがこのような舞台上で演示することができるようにする必要があると思われる。

昨年度は3月、本年度は12月に実施したが、楽しみにして来てくださるお客様への配慮も含め、毎年同じ時期に行うことが本来望ましい。他イベントとの日程も併せ、実施時期についても今後検討していきたい。

謝辞

本イベントは、多くの方々の支えのもとで無事に実施することができました。特にチラシ等の作成に携わっていただいた永原氏、日々の演習指導・イベントの調整等にご尽力いただいております学芸員の皆様に多大なご協力をいただきました。本紙面をお借りしまして深く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 木村友美、奥出恵子、「We are 科学デモンストレーターズ」実施報告,大阪市立科学館研究報告,第24号(2014年)

